

米国のバイオ燃料事情



石油大手が藻由来の燃料に期待

輸送用燃料は製油所内で製造するのが

「大気浄化法のセルロース系バイオ燃料の定義に藻由来のバイオ燃料を含めること、およびセルロース系バイオ燃料と同等の手厚い税優遇を与えること」を内容とする法案(HR3460)が先月(7月)末に下院に提出されました。

セルロース系バイオ燃料は再生可能燃料基準(RFS)に含まれている燃料の分類のひとつです。

そして環境保護庁(EPA)が、「RFS の規則に藻由来の燃料も含めたい」(7月24日、[Inside EPA Weekly Report](#))と言うようになりました。

RFS の規則案(5月に公示)に対するパブリックコメントを募集中の EPA は、ごく最近まで藻由来の燃料を RFS に含めるのは時期尚早としていました。

なぜ急に

Exxon Mobil が、藻由来の輸送用燃料の商業生産の技術開発に、考えられないほど多額の資金を投入することが大きく影響しています。

ご承知のように Exxon Mobil は 7 月 14 日に、米国のバイオテクノロジー会社 Synthetic Genomics と協力して行なう藻由来のバイオ燃料の商業生産の技術開発に総額 6 億ドル以上を投資すると発表しました。

藻が生産する炭化水素を抽出して、これ(バイオ原油)を製油所で精製して石油系と変わらない輸送用燃料を製造します。

Greenpeace の論客 Kert Davies 氏が次のようにコメントしています。

「我々は地球温暖化対策には石油産業の参加が必要と言い続けてきた。Exxon のような会社

(Web 版)「世界のエネルギーの話題」(2009 年 8 月 15 日)

の助けが無ければ何も解決できない。」(7 月 14 日、Greenwire)

忘れてはいけないのは

米国のバイオテクノロジー会社 Sapphire Energy の努力です。

同社は 2007 年に設立され、本年 1 月のコンチネンタル航空および日本航空によるバイオ燃料の試験飛行に藻由来のジェット燃料の原料を提供してメディアをにぎわせました。

Sapphire Energy の藻が生産するのは軽質原油に相当するバイオ原油です。同社は Green Crude と呼んでいます。

これを製油所で精製して石油系と変わらない輸送用燃料を製造します。

同社の Jason Pyle 最高経営責任者は昨年 10 月に、「小異を捨て団結してエネルギー政策について国に働きかけよう」(2008 年 10 月 23 日、Company Reports)と同業者に呼びかけ、業界を代表して、連邦政府および議会に接触しているようです。

そして同社は本年 2 月に、BP の上級役員で 2007 年から同社の石油精製部門のトップの要職にあった Cynthia J. Warner 氏を社長に迎えています。

同社長はこの 5 月の上院の環境・公共事業委員会の公聴会で、「石炭火力発電所等で排出される CO₂ を藻類などの媒体を通して有効再利用できるようにする法律の制定を求めて」(5 月 19 日、Congressional Documents and Publications)います。

異を唱える団体も無いようなので実現の可能性は高いと思います。

ひとこと

輸送用燃料は製油所内で製造するのが基本です。

Synthetic Genomics も、Sapphire Energy も、それを十分に承知しています。

(YY)

(Web 版)「世界のエネルギーの話題」(2009 年 8 月 15 日)

本レポートは、世界の 2,100 以上の新聞、3,500 以上の業界誌、500 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバのデータベースサービス、および Web で入手した多数の記事、レポートを比較、分析して、その結果の一部をご紹介します。(山崎由廣)